

読売新聞 9月14日 木曜日 朝刊

< 編集手帳より >

小説「人生劇場」などで知られる作家、故・尾崎四郎は酔うときまって、好きな浪花節の一節を口ずさんだという。

「青きは鯖の肌にして、黒きは人の心なり・・・」

数をごまかすことを「サバを読む」というのは一説に、鯖は傷みが早いため、昔の魚市場では目にもとまらぬ速さで数え上げて売ったことに由来するという。

耐震強度でサバを読んだ人々も、公費のサバを読んで裏金を蓄えた人々も、黒きは人の心なり、だろう。